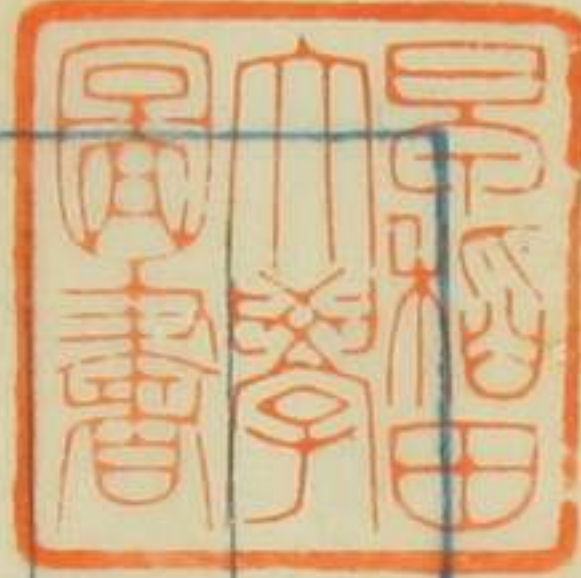


2992



114
A 3918



日本東京大坂及其他一万余世不朽ノ水桶
ヲ用ヒテ水道ヲ布設スル策

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

水ノ良否ニ因テ人身及動物ノ利害ヲ論ジタル
著書既ニ世ニ流布スルヲ其数甚多シ此其ニツ
キ改羅巴ノ大字士屢試験ヲナシタルニ泉水流
水及能ク大気ヲ含有スル水ハ飲料トナシ又諸
其理ハ左ニ陳スル如ク善良ノ飲水タルニ緊要
ナル性質ヲ保テバナリ
此水ノ性質ハ清潔ニメ寒冷ニ臭気ナクメ些少

藤 中

ノ味アル如クナレ味ナク且鹽味甘味ナレ此
水ハ野菜ヲ煮テ能ク之ヲ和ニシ又石鹼ヲ溶解
スルニ宜シ(以上エー、ゲル、タルツ氏著述醫科化
学各第一卷六十六葉ニ見ヘタリ)
井水ハ数種ノ地層及数種ノ物質ヲ通過シテ溜
止スルモノナレバ其性質ニ於テモ又数種アリ
通常ハ能ク空氣ヲ含有セザルヨリ之ヲ飲ムハ
嘔氣ヲ促ス者ナリ何レノ園丁モ井水ヲ汲ミ其
未ダ能ク空氣ノ混和セザルヲ直ニ植物ニ注ゲ
ハ凋衰ニ至ルヲ以テ之ヲ振搖シテ空氣ヲ含蓄

セシメ而シテ之ヲ注ゲバ能ク植物ヲ養成スルヲ
知ルナリ
都會ノ地ニ於テハ井水ノ人身健康ニ害アルヲ
癸明セリ例スルニ巴里ノ井水ハ多量ノ硫酸石
灰及「ナイトル」硝酸ノ抱合アルヲ癸見シテヨリ
此水ハ飲ム可ラス又庖厨洗濯ニ用フ可ラザル
モノトセリ
是レ清水汚水ノ地中ニ浸入スル寸或ハ廁圍ヲ
通過シ自ラ有機物ヲ含ム故ナリ
斯ノ如キ井水ヲ用テ麪包ヲ製ス可ラス巴里ノ

井水ト東京ノ井水ト甚タ能ク相類似スルヲ以テ東京ノ井水ヲ用テ飯米ヲ炊ク可ラズ而シテ東京ニ於テ日本ノ麩包師ト西洋ノ麩包師トノ製スル麩包ノ際ニ其味ト其質トノ差違ヲ生スルハ左ノ件ヨリス

西洋ノ麩包師ハ川崎近傍ニテ玉川ノ水ヲ汲取シテ之ヲ漉シ麩包ヲ製スレド日本ノ麩包師ハ東京ノ井水ヲ用フルヨリ斯ク麩包ニ其質ト其味ヲ異ニスルナリ

玉川ノ水ハ長サ十四里ノ堀割ニ由テ十分ニ東京内ニ導クト人ハ云フベシ然レド此水ニツキ堀割ヲ創造シタル人ノ希望ニハ尙未ダ適マザルヲ生等ノ探究ト驗閱ニテ生等ニ明亮ナラシメタリ此莫ラ信ビタル人ニハ左ノ分析表ヲ示シテ生ノ説ノ確實ナルヲ明知マシムベシ

東京府下玉川上水上流試験表

此水ハ清澄ニモ毫モ臭気ナク且味ナクコロルバリユム及硝酸銀液ヲ加ヘテ少モ沈澱ヲ生ズ不稼酸アムモニアキニ由テ少モ分離マス此上水十リト即一万立方ガンテノト

中左ノ固形成分ヲ含ム

炭酸ソジウム	〇ガラム、一〇七三八
炭酸ポッタシウム	〇ガラム、〇〇一五六
炭酸カルシウム	〇ガラム、二三七五〇
炭酸第一鉄	〇ガラム、〇〇四九三

総計

〇ガラム、三五一三七

東京府下玉川上水 downstream 試験表

(但木挽町蓬萊橋際高柳ヨリ汲取ル者)

此水ハ其性濁濁不透明ニノ数日間静置スルモ
更ニ沈澱スルヲアルナシ然レモ之ヲ蒸発ス

バ直ニ灰白色ノ査塗ヲ分離ス此塗ヲ取り檢ス
ルニ多クノ珪酸礬土ニ酸化鉄炭酸石灰ヲ混
成ルモノナリ

此下流ノ水十リトル即一万立方センチメ
トル中ニテ固形成分ヲ檢出スルヲ左ノ如シ

鹽化ソジウム	〇ガラム、〇七三五六
鹽化ポッタシウム	〇ガラム、〇一一四四
炭酸カルシウム	〇ガラム、二一七〇〇
炭酸マグネシウム	〇ガラム、〇〇四七〇
珪酸	〇ガラム、〇九三二〇

酸化鉄	〇	ガラム	〇	〇	三六〇
燐酸	〇	ガラム	〇	〇	五二〇
酸化アルミニウム	〇	ガラム	〇	〇	七五〇
硝酸	〇	ガラム	〇	〇	四六〇
有機物	〇	ガラム	〇	〇	八〇
総量	〇	ガラム	四六三	〇	〇

生尚神田上水ヲ説クベシ即チ東京ニ水ヲ導ク
 二個ノ水源ノ一ナリ生ハ不幸ニ井ノ頭ニ於テ
 此水ノ分析ヲ為スヲ得ガリシニ由リ唯其水ノ
 未ル所ノ駿河臺近傍ノ水ヲ以テ分析ヲナスリ

左ノ如シ

東京府下神田上水試験表

神田上水十リートルヲ分析シテ左ノ成分ヲ檢
 出セリ

炭酸カルシウム	〇	ガラム	〇	一七三八
炭酸第一鉄	〇	ガラム	〇	八二三
硫酸カルシウム	〇	ガラム	一七二四	三
硫酸マグネシウム	〇	ガラム	〇	六一三八
燐酸カルシウム	〇	ガラム	〇	四〇〇
鹽化ボクシゲニウム	〇	ガラム	〇	四三八六

亜硝酸

アムモニウム 〇ガラム、〇七九〇

珪酸

〇ガラム、一〇〇七五

礬土

〇ガラム、〇〇九〇

有機物及分析中消失
スル所ノ物質含量

〇ガラム、〇七三七三

通計

〇ガラム、六〇五七六

右ノ分析ニ由テ讀者ハ玉川ノ水其川床ヲ通過
スル寸ハ良好ト雖モ掘割ノ中ヲ經過スルニ隨
テ悉クナルヲ明識スベシ蓋シ此掘割ハ塵埃
敗葉枯枝等ノ水中ニ入ルヲ防ガカル故ナリ讀
者ハ尚其水中ニ含有スル物質ノ人身健康ヲ害

スル結果ヲ明知スベシ斯ノ如キ有害ノ景況ヲ
除忝スル單一ノ方法ハ即西洋ノ方法ヲ用ルニ
アリ詳ニ之ヲ説ケバ水漚水槽等ヲ用ルナリ
現今ノ水ヲ配賦スル方法ニ於テ其中ニ含有ス
ル有害ノ成果ハ忽テ消除スルナリ目今日本ノ
水樋ハ唯東京ノ井ニ水ヲ注出スルノミニ玉
川ノ水ト東京井中固有ノ水ト混合スルヨリ全
ク悪水トナルナリ其故ハ東京ハ自然ニ低窪ノ
地位ナルニ由リ水モ自ラ鹹味ヲ含メリ西洋ノ
方法ヲ以テ之ヲ布設スレバ毫モ水切レアル

ナク水浪ノ罾械ヨリ捻管等ヲ以テ各家及園庭
等ニ至ルマデ水ヲ注出ス此方法ハ即今日本ノ
方法ヨリ始メハ少ク高價ナルベケレモ終ニハ
日本ノ方法ヨリ甚ダ低價ニ至ルベシ其故ハ此
方法ハ絶ヘズ且高價ナル管繕ヲ用ルヲナク而
メ生等ノ水樋ハ數百年ノ間使用スルヲ得ベキ
ヲ以テナリ之ニ及シテ日本ノ方法ニ於テハ水
樋ヲ布設シテヨリ或ハ四年或ハ七年ノ後其樋
ヲ埋メタル地ノ性質ニ從ヒ政府ヨリ管繕ヲ要
スベシ

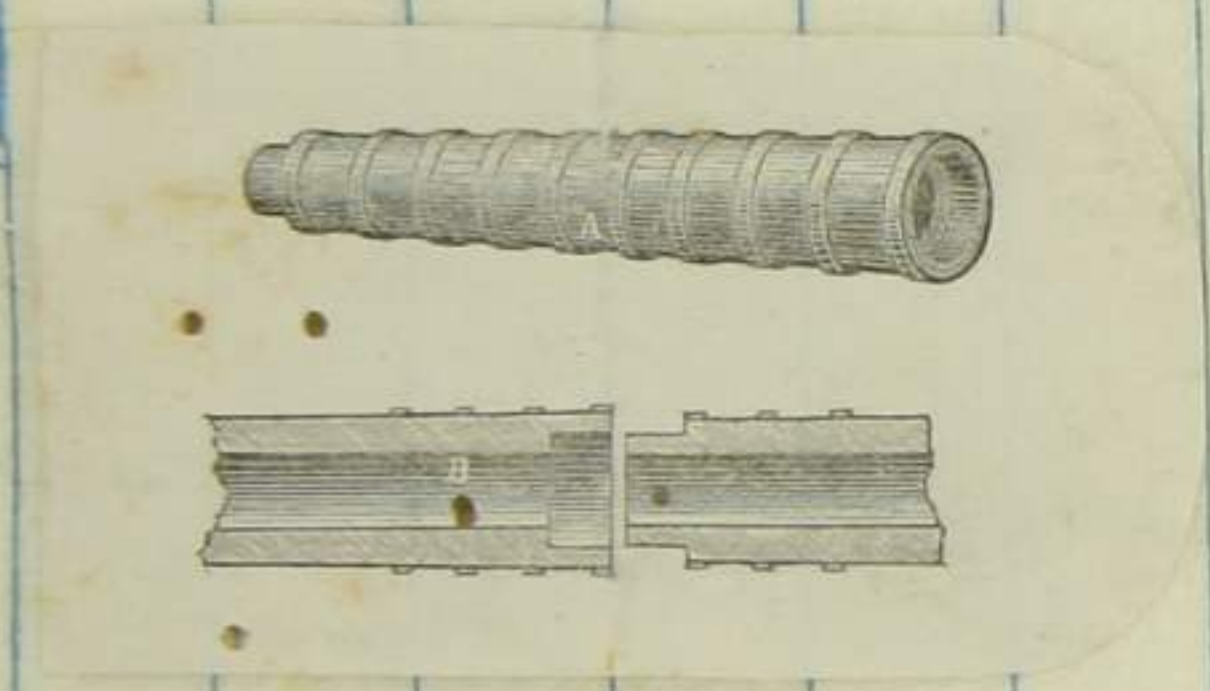
生此末文ニ此策ノ利益ヲ個々明詳ニ説クベシ
水ノ件ハ日本ノ經濟學士ノ一大思考ナリシナ
ルベシ其學士ハ從來水ヲメ必ズ健康ニ利アラ
シメント勞苦シタルベシ然レモ多分水ノ罾械
ヲ有マザルヨリ學者ハ其懇切ノ希望ヲ是マデ
実施スルヲ得ガリシナリ
斯ノ如キ故ナルニ因リ當今米國ニテ發明シタ
ル專賣官許ノ木製水樋ハ久ニ堪ヘ堅固ニメ純
粹ニ且節儉ナルヲ以テ謹テ日本政府ニ上申ス
ルヲ左ノ如シ

此水樋ハ諸用ニ供スベク且最良ノ鑄鉄及鍛鉄
ニテ製シタル水樋ヨリ優レルモノナリ
生此水樋ノ優レルヲ誇説セバ未ダ此水樋ヲ知
ラザル人又ハ日本及其他ニテ木製ノ水樋ノミ
ヲ目撃スル人ハ之ヲ信セサルベシ然レ氏之ニ
管スル人ハ必ズ生ノ其定理ヲケレバ斯ク其優
ナルヲ誇説セザルヲ知ルベシト信ス
生ノ工業ハ此ニ陳述スル如ク更ニ相逕度スル
ナキハ生等ノ始ヨリ保証スル所ナルヲ諒知セ
ラレシトテ希望ス

生此水樋ヲ知ラザル諸人ノ為ニ其製造ノ方法
ヲ示サントス
此水樋ヲ製作スルニハ先ツ材木ノ撰擇ニ注意
スベシ此材木ハ^{ホッシエツト}サウインド^地名ニ生スル
赤松ニ限ルナリ
合衆国政府ノ官吏太平海濱ノ山林検査ノタメ
巡廻セシトキ^{アイルランド}ノ地ニテ此樹
木ヲ検査シ^ニ揀木ニ比スレバ木質優レリト決マ
リ此木ハ枝ノ下ヨリ切り幹ノミヲ用テ其心ハ
棄ツベシ

而ノ之ヲ長サハフ^トニ切リ米國專賣官許ノ
 輾軋錐ヲ以テ其中ヲ四形ニ切抜キテ四筒ヲ製
 シ而ノ其中央ノ木ヨリ漸次ニ小ナル桶ヲ作り
 終ニ木ノ尽ルニ至ルナリ
 斯ノ如クニシテ桶ヲ作り輾軋ニ掛テ其外部ヲ
 滑ニス但シ一方ノ端ハ少ク細クシテ此水桶水
 ノ壓力ニ耐ハサル所ニ用ルニハ鉄ヲ以テ帶ス
 ルニ便トス此鉄帶ノ數ハ水源ノ高低ニ因テ水
 ノ壓力ノ強弱ニ比例シテ増減スルナリ
 斯ク製シタル木桶ヲ蒸氣室ニ入レテ鉄帶ヲ卷

キ而ノ^カスル^トハ^ノ種^ニヲ塗テ外部ヲ防キ
 又其上ニ鋸屑ヲ覆テ平常取扱ニ便ニス
 水桶ヲ联接スル方法ハ左ノ図ヲ以テ知ルベシ
 甲ハ水桶ノ外部ヲ示シ乙ハ水桶二個ノ續目ヲ
 頭ハス



生等ノ水ノ極小	
外部ノ口徑	内部ノ口徑
チニイ	チニイ
六七八十一十四十六二十	二三四六八十四

今此ニ載スルモノハ内部ノ口徑三「インチ」外部ノ口徑七「インチ」ナリ
 生遺憾トスル所ハ當今生ノ手ニ曲形彎形十字形ノ如キ水樋ノ貯畜ナキラ然リト虽此等ノ附属品及其大小ハ推テ知ラル可キナリ若シ之ノ

要トスレバ速ニ齎来スベシ
 千八百七十三年九月廿三日「カリホルニア」部内「サンフランシスコ」ニ於テ畧械師「チャールズ・イリヨット」氏及「ジョー・ルジ」ヘルリック氏此水樋ヲ試験シテ大ニ賞譽シ直ニ「スパリング」ウエルリ「地名」ニ用ル「テ」ヲ決定セリ
 夫レ木ハ久ク水中ニ沈滞スト至其害アル「テ」ナシ然レハ鉄ハ速ニ錆ヲ生シテ損取スルモノナリ又鑛物ヲ帶ル水ハ固ヨリ「何」レノ水ト至自然ニ多少ノ鑛氣ヲ含ムモノナリ「木」ヲ害スル「テ」ナ

レ之ニ及レテ鉄ニ在テハ些少ニテモ其水ニ鑽
気ノ差違アレバ之ヨリ生ズル成蹟ニモ亦大ナ
ル差違アルナリ

例ハバ木ニ在テハ通常ノ水モ鹽分アル水モ同
一ノ成蹟ナルベケレバ鉄ニ在テハ些少ニテモ
鹽分アル水ハ更ニ鹽分ナキ水ヨリ鉄ヲ損敗ス
ベシ

生等此水樋ヲ鉄製ノ水樋ニ比スレバ裨
益アルヲ陳述スル左ノ如シ

第一 此樋ヲ埋ムルニハ容易クシテ且其速ク

ルヲ例ハ溝渠ヲ穿ケタル後人夫三人ニテ一
日四千フートヲ埋ムベシ但シ溝ハ鑄鉄製ノ水
樋ヲ埋ムルヨリ大ナラス

第二 水樋ヲ联接スルヲ輕便ニシテ又之ヲ埋
ムルニモ熟達ノエヲ要マス

第三 此樋ニ孔ヲ穿ツヲ容易ニメ畧械モ通常
ノ錐ヲ用フ

第四 此水樋ニ收縮膨脹アルヲナク夏ハ冷水
ヲ出シ冬ハ極寒ト雖氷ルヲナシ

第五 木ノ質タルマ熱ヲ傳ハサル故ニ之ヲ地

中ニ深ク埋ルヲ要マス

第六 此水樋ニ在テハ決レテ收縮スルヲナシ
米國諸州ニテハ之ヲ瓦斯管ニ用フ

此水樋ハ斯ノ如ク鉄製ノ水樋ヨリ優レルノ証
ヲ掲グルニ於テハ東京ニ用ヒタル水樋ト生等
ノ水樋トノ利害優劣ヲ計較スルヲ要トセザル
ナリ

生等ノ免許ヲ得タル万世不朽水樋ノ由

来

生等此新發明ノ水樋ヲ世上ニ流布セシムルハ

困難ノ甚ハシラス其故ハ此水樋ヲ実施マシ
リ既ニ十六年而メ合衆國諸州ニ流布シ之ヲ歎

賞セザルモノナシ抑此水樋ヲ用ヒタル始メハ

新為克部内ニシテノ地ナリ該地ハ主等ノ免

許ヲ得タル發明者ノ住所ニメ初メテ此樋ヲ布

設シタルハ千八百六十年ナリ當時ハ凡十八里

ノ地ニ口徑十二インチノ樋ヲ埋メタリ其後最

モ又シテ土中ニ在ルモノヲ掘出シタルヲアリ

シニ毫モ損敗ノ徴ヲ見ズ
又「メンシル」等ニヤ部内ノ「ホリ」テス「ホル」ク
名地ハ

鉄工製造ノ中心ナレ氏生等ノ免許ヲ得タル水
樋ヲ以テ凡ソ十里ノ地ニ之ヲ布設シタルハ
蓋シ裨益アレバナリ斯ノ如キ水樋ヲ日本政府
ニ上申セントス此水樋ヲ製造スル會社ニ送り
タル証拠ハ其樋ノ精良ナルヲ証スルニ足ル
リ
生等ノ免許ヲ受タル水樋ヲ以テ水道ヲ布設シ
テヨリ目今ニ至ルマテ九年ニ及ブト至新製ノ
水樋ノ如ク堅固ニシテ毫モ変スルコトナレ故ニ生
等其如何ニ久シク存在スベキマ之ヲ臆測シ能

ハスト至數百年ノ後ニ至ルモ尚損敗スルコト
カル可シト信スルナリ

左ノ諸人ハ數年此樋ヲ試シ其不巧ナルヲ能ク
保証ス

「エルミラ」水道所有主 「ジョージ、エム、ダイヴンス」

前裁判官 「イー、ポー、ブルークス」

「ジャールダス、ラングドン」

「エドワース、エールドリジュ」

「エルミラ」デリー、ガゼット新聞社主 「エル、エー」及「シー、ハガール」

「アドゥル、タイガル」新聞社主 「ファンマン」及「ソルストン」

前裁判官

「アー、エス、ソルストンヌ」

裁判官

「ドーマース、スポルデング」

銀行主

「ジョン、アルノット」

前水道器械師長

「ワイルス、エロー」

国会議員

「ホノローブル、アショール、タイレール」

「エルミラ」鉄工長

「イー、ダブルユー、ラスボーン」

国会議員

「ホノローブル、ジョン、ラスボーン」

呈諸君

「セーレス、ペト、シー」拜

新約克部内「エルミラ」

一千八百六十九年七月五日

右ノ外ニ猶奉グベキ確証許多アレ氏貴重ノ光陰ヲ空過スルヲ恐れ敢テ此ニ記載セス

日本政府及人民ニ裨益アル

改羅巴及米国ニ歴游シタル日本ノ諸君ハ必ス両洲内ニ於テ公私布設ノ水道ヲ以テ水ヲ得ルニ軽便ナルヲ驚賞シタルベシ例ハバ人アリ捻管ヲ捻レバ水充分ニ噴出ス當ニ庖厨臥房浴室ノミナラス花園ニ至ルマデ又捻管ノ準備アリテ炎天ニ水ヲ艸花及野菜ニ注

カントスレバ其捻管ヲ捻ルノミナリ又厩舎及陣営ニモ此捻管ヲ設ケテ水ヲ引ケリ

右ノ水樋ヲ布設スルニハ始メ許多ノ費額ヲ要スル如クニ見ユレ氏輕便ニメ時間ヲ省キ且辛勞アルヲナシ既ニ衆人ノ知ル如ク日本ノ汲水人ハ驚クベキ艱難ノ辛勞ヲナセリ冬天ノ雨雪街泥ノ凍結スル寸ニ至テハ壯者モ亦其健康ニ害アリ又夏ハ水ヲ用ルヲ多量ニメ且屢水切レアルヲ以テ許多ノ井水涸尽シ炎暑ニ際レテ遠所ヨリ水ヲ擔ヒ来ル如何ナル強壯者ト雖辛勞

ニ堪ハルナリ

斯ノ如キ故ヲ以テ西洋法ノ水樋ヲ用ユレハ此弊害ヲ尽ク芟除スベシ是故ニ東京大坂其他ノ地方唯政府ノ欲スル所此水樋ヲ埋布シ玉ハン

トテ伏テ希フ所ナリ
生之ヲ聞ク大坂ニハ清良ノ水ニ乏シト方今日本政府ハ人民保護ノ慈意ニノ又其至ラカル所ナキハ生等ノ保証スル所ナリ今生ノ左ニ陳述スル水樋ハ其益廣大ナルガ故ニ請フ必ス之ヲ採用シ玉ントラ

茅一 水樋ノ節儉ナルヲ

東京水道管繕ハ絶ル時ナク其費額巨大ナルハ
衆人ノ知ル所ナリ若シ生等ノ方法ヲ採用スレ
バ其憂アルナシ或ハ修繕ヲ要スルモ必ず瑣少
ノ件ニ過サルベシ

米国「ホリテスホル」地名ノ水道工長「ジョン、ブロー

」氏各簡ヲ以テ生等ニ示ス左ノ如シ

二年半ノ間ニ十一英里マイル（日本四里十七丁二十間）

ノ水道線路ノ修繕ヲ加ヘタルニ其費額百六十

二弗五十一セントナリシト

茅二 久ニ堪ルヲ

右「ロームス、ポトリ」ノ証ヲ以テ生等ノ水樋ハ
万世不朽ノ名号ニ適スルヲ知ルベシ

茅三 各製造所及各工場ニ用ヒテ無限ノ利

益アルヲ

茅四 溝渠ヨリ臭気ノ発散スルヲナク且流通

スル水勢猛烈ナルヲ以テ容易ニ之ヲ清潔ニス

ベシ

茅五 火災消防ニ便ナルヲ

樋中流水ノ壓力凡ソ九十「ポンド」ニ且捻管ノ

間隔近キニ因テ火災ニ際シ消防人夫及消防器
械ノ未ダ到ラザル寸ト至直ニ水ヲ用ルニ便ナ
リ

第六 生等ノ水樋ハ鉄製ノ水樋ニ比スレバ其
價ノ低キヲ半ナリ而シテ鉄製ノ水樋ヲ東京ニ用
ヒバ東京ノ水中ニ含有スル多量ノ炭酸等ノ為
ニ障礙モラル、^トアルベクモ生等ノ水樋ハ此
患害ナシ曾テホストンニ於テ鉄製ノ水樋ヲ埋
布シタリシニセケ年ノ後炭酸ノ為ニ全ク閉鎖
シテ甚ク困難モリ生等ノ水樋ヲ用フレバ此大

トル困難モ答ヲ生スルヲナシ

日本政府ニ於テ得ル所ノ巨大ナル入額
日本ノ政府又ハ東京府或ハ商人會社ニテ現今
東京ニ布設シタル水道ヲ所有スルヤ否ハ生未
ダ之ヲ知ラズ若シ之ヲ所有スルモ其水道ヨリ
利益ヲ得ルヤ亦生ノ知ラザル所ナリ然レモ生
等ノ思考ハ日本ノ政府又ハ東京府ニテ斯ク大
切ナル水道ヲ專有スルヲ好シト信スルナリ
其故ハ水道ヲ布設スレバ各種ノ利益ヲ生起シ
而シテ其利益ヲ以テ歐洲ニ於テ為ス如ク都會ヲ

壯麗ニスル等ニ使用スルヲ得レバナリ
生等聞ク本所及深川ノ住民ヨリ屢其大区内ニ
清良ノ水ヲ有メント政府ニ請願シタリト此請
願々充分ノ條理アリトス如何トナレバ此住民
ハ常ニ飲料ノ水ヲ有マサレバナリ生又各人ノ
其飲水ノ為ニ日々一錢ヲ費スト聞ケリ今本所
及深川ノ内ニ十五万二千三百九人(千八百七
十五年十二月ノ調)アルヲ以テ其住民ハ毎日千
五百廿三四廿九錢ヲ費スナリ而メ之ヲ集算ス
レバ毎里五十五万六千四八十五錢トナル

先ツ生等ノ方法ヲ用ルト假定スルニ十二里ノ
水樋ヲ埋布シ水槽一個ト之ニ供スル水漉ト悉
皆ノ工業六十万回(生等ノ概算)ヲ費サバ此大区
内三万六千八百五十戸ノ各人ニ一人ニツキ日
毎ニ清澄ノ水二百五十リトルツ、ヲ配給ス
ベシ而メ此工業ヲノ尚幾層ノ強固ヲ欲スレハ
前文ニ記載スル水費十八ヶ月分ヲ供シテ十分
ニ其工費ヲ償フヲ得ベシ
東京ハ此大区ヨリ概略六倍大ナルヲ以テ東京
ノ水道布設ヲ之ニ比算スベシ例ハ工業七十

二里ニテ三百六十万円ヲ費ストスルニ此費金ハ水税ヲ課シテ甚ダ少時間ニ償フヲ得ベシ全都ニ八十四里ノ水道ヲ布設シ之ニ供スベキ水漕ト水槽ト共ニ四百廿万円ヲ費ストシ之ヲ人口ニ較算スルニ一人ニツキ四円九錢ノ小額トナルベシ欧米諸国ニテハ其中等ノ價位一人ニツキ九円七十錢トナルナリ

實ニ政府ノ謁官ヨリ此額(四円九錢)ヲ見レバ百万ノ住民上ニハ重税ナリト云ハルヲ得ベシ然レ氏此二業ノ費額ハ政府ヨリ工業發起人ニ

二年ノ期限ヲ以テ尽ク拂フト定ムルヲ得ベシ斯ノ如クスレバ毎年ノ水税ハ唯八十四万円トナルベシ其金負ノ利子ヲ算入スルモ一人ノ費用甚ダ些少ノ高ナリ即チ一人ニツキ毎月八錢ト三分ノ一ニメ一年ニテ一円トナルナリ

此工費ハ五年ニテ悉皆清還スルヲ以テ然ル後ハ此水道ハ政府ノ所有タルベシ例ハ政府ニテ水税ヲ一人ニツキ毎月五錢ニ低下セバ即チ毎年一人ニツキ六十錢トナリ政府ノ入額ハ毎年六十万円トナルベシ之ヲ一割ノ利子ナリト

見做シテ計算スレバ六百万四ノ資本金アル姿
ニナルベシ

此莫業ハ費金ヲ大藏省ニ仰ガスメ悉ク成就ス
ルナリ総テ前文ノ件ハ唯生等ヨリ日本政府ニ
奉呈スル建言ナルヲ以テ政府ヨリ更ニ下問ヲ
玉ハハ生等欣然トメ之ニ應ゼントス

千八百七十六年三月四日

東京

ドニ、ラリユ一

Henry Harries

